

令和5年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
所管部	産業・地域振興支援部		関係部	芝浦港南地区総合支所	

2 政策のめざす方向性

町会・自治会をはじめ、NPO、ボランティア組織、商店会など地域コミュニティを支える多様な主体の活動を支援し、誰もが快適にいきいきと暮らすことができる地域共生社会の取組を地域ぐるみで実現していきます。あらゆる世代のコミュニティの場で活動の中心となって活躍できるよう、地域活動の担い手となる人材を育成し、地域コミュニティの活性化をめざします。コミュニティ活動を行う上で、必要な情報を手軽に入手できるよう様々な方法で発信していきます。

SDGsとの関係		
----------	---	---

3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
22.2%	33.2%	24.0%	26.6%	A	

これまでの取組と成果
各地域の活動主体を支援し、地域コミュニティが活性化する施策に取り組んできました。新型コロナウイルス感染症の影響で、十分なコミュニティ活動ができない期間がありましたが、イベントの開催制限や外出の自粛要請等が緩和される中で、徐々に会議体やイベントへの参加者は増加しています。

課題と今後の方向性
※未達成の場合は原因分析を含む
政策について満足している区民の割合をさらに伸ばせるように情報発信の強化や各活動主体の支援を継続して実施します。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	コミュニティ活動に取り組む多様な主体への支援	町会・自治会活動を担う役員数について「不足していない」と回答した割合	C
		NPO活動助成制度利用団体数	
②	コミュニティ活動を担う人材と組織への支援	区民参画会議の参加者数	A
		安全で安心なまちづくりに向けた活動参加者数	
③	様々な媒体を活用した地域活動情報の共有によるコミュニティの活性化	総合支所Twitterのフォロワー数	A
		地域を知る事業の参加者数	
④	コミュニティ活動の場の提供	区民センター利用率	A
		伝統文化交流館「交流の間」利用件数	
⑤	コミュニティ活動の機会の充実	地域と連携・協働、支援しているイベントの参加者数	A
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	1,465,922	1,446,778	1,559,290
流用・補正	-11,095	66,383	-
決算額	1,211,972	1,471,578	-
執行率	83.31%	95.17%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等

計画期間中の社会経済状況等の変化 ・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など	新型コロナウイルス感染症によるイベントの開催制限等が緩和され、コミュニティ活動は活発になっています。また、国や都は、地縁団体の活動を持続可能なものにするためのデジタル化の推進を求めています。
---	---

区民ニーズ等 ・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見など	コミュニティ活動のきっかけとなるイベントが増加したことでコミュニティ活動の機運は高まっています。また、区民の声では、NPOに対する支援の厳格な運用や町会・自治会に対してコスト意識をもったデジタル化支援を求める意見がありました。
-------------------------------------	---

7 所管課による評価【一次評価】

政策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法での情報発信ではTwitter等のSNSによる情報発信を強化し、目標値を上回るフォロワー数をすべての支所が獲得できました。 多様な主体の支援ではNPO活動助成制度による支援を実施しましたが、目標としている利用団体数には届きませんでした。 政策全体としては、区民参画会議への参加者やTwitterフォロワー数が目標値を達成するなど、政策目的をおおむね達成できています。
---------	--

達成状況の要因 ・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など	<ul style="list-style-type: none"> 施策「様々な媒体を活用した地域活動情報の共有によるコミュニティの活性化」では地域の有益な情報を積極的に発信したことの有効性が高く、達成の要因となりました。 施策「コミュニティ活動に取り組む多様な主体への支援」では、NPO活動助成制度の周知方法などに課題があり、達成できない要因となりました。
--	--

課題と今後の方向性	基本的な感染対策を徹底しながら、新たな活動主体の育成や地域コミュニティの活性化を狙った事業に取り組んでいきます。コミュニティ活動に必要な情報の入手・発信が手軽にできるように、引き続きSNSによる情報発信や町会・自治会のデジタル化支援を推進します。
-----------	---

8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

評価※	B：政策目的をおおむね達成できる。
-----	-------------------



政策の達成度	<ul style="list-style-type: none"> NPO活動助成制度は利用団体数が減少傾向です。 町会・自治会のデジタル化支援については、消極的な団体もあります。 チャレンジコミュニティ大学など、地域活動のリーダー養成の取組は評価できます。
--------	---

今後の政策の方向性 ・重点的に取り組むべき施策など	<ul style="list-style-type: none"> NPO活動助成制度の現状の課題を分析し、制度設計を見直すことで、社会的な課題の解決や区民福祉の向上に向けたNPO等の活動を積極的に支援する必要があります。 地域の実情を把握し、町会・自治会の負担軽減につながるデジタル化支援を行う必要があります。
------------------------------	---

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外

施策評価シート

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
施策No	1	施策名	コミュニティ活動に取り組む多様な主体への支援		
目標・期待する成果	コミュニティ活動に取り組む多様な主体とともに地域の課題解決に向けた協働で行う活動を促進し、区民の誰もが安全で安心して住み続けられるまちづくりをめざします。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	地域振興課		関係課		
担当者名	藤岡	内線	2557		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
町会・自治会活動を担う役員数について「不足していない」と回答した割合	45.8%	—	—	47%	47.0%	50.0%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	—	・町会・自治会活動応援個別プログラムでは、町会等の役員業務を可視化し、役割分担の見直しや活動内容を住民に情報発信する等支援しています。 ・コロナ禍においても町会員に情報を提供できるよう、町会・自治会のためのSNS入門講座を開催しました。		共同住宅居住者や若年層に、地域の情報を広く届け、高齢化した活動者の事務負担を軽減するために、更にデジタル化を支援します。		
令和4年度	—	・まるごとデジタル支援事業として情報発信や会計の講座を行い、定員を上回る申し込みがありました。		デジタル化に興味がある団体を支援する仕組みは構築できていますが、消極的な団体に対しても成功事例等を示しながら、デジタル化を推進します。		
令和5年度	a	・デジタル回覧板の導入やHP作成支援等により役員の負担を軽減し、デジタルデバイドの解消に努めます。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
 c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
NPO活動助成制度利用団体数	6団体/年	5団体/年	3団体/年	3団体/年	7団体/年	7団体/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	感染症拡大防止により、助成金交付団体のオンラインによる中間及び実績報告会を開催し、団体活動に対して助言など行いました。区内NPO等にアンケートを実施しました。		助成金交付団体の活動紹介を広報紙だけでなくTwitterを活用して発信していきます。港区協働推進委員会において、必要な中間支援機能について検討していきます。		
令和4年度	c	申込は5団体ありましたが、助成の利用に至ったのは3団体に留まりました。		申込団体数が伸び悩んでいるため、次年度以降の応募団体増加に向けて申込要件等を検証していきます。		
令和5年度	c	令和6年度の応募団体の増加に向け、NPO活動助成制度について外部有識者の意見を伺い、制度設計の見直しを実施します。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会活動を担う役員数は、デジタル化支援により町会・自治会役員の負担を軽減し、役員数を適切な数に改善することで目標値の達成を見込んでいます。 ・NPO活動助成制度は令和5年度の申込団体が3団体に留まるため、達成は見込めません。 ・町会・自治会へのデジタル化支援とNPO活動助成制度の制度設計の見直しをすることで、計画目標値は達成可能性があるためCとしました。
達成状況の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「町会・自治会活動を担う役員数について「不足していない」と回答した割合」はデジタル化を積極的に働きかけることが達成の要因となる見込みです。 ・成果指標「NPO活動助成制度利用団体数」はNPO活動助成制度が想定していたよりも活用されなかったため、周知方法や制度設計に課題があり、達成できない要因となりました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会の課題に対し、町会・自治会応援プログラムやデジタル化支援等を通じた支援を継続し、地域課題の解決に努めます。 ・NPO活動助成制度は周知方法や制度設計を見直すことで、利用団体の増加を目指します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。



B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
施策No	2	施策名	コミュニティ活動を担う人材と組織への支援		
目標・期待する成果	区民、在勤者、在学者、外国人等の様々な人々が共生する中、コミュニティリーダーとなりうる人材を養成し、コミュニティ活動の担い手を増やし、地域課題解決のための取組につなげます。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	地域振興課		関係課		
担当者名	藤岡	内線	2557		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
区民参画会議の参加者数	179人	226人	280人	280人	258人	270人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	感染症対策に伴い、実施回数が減少しています。		感染症拡大を踏まえた実施方法を検討していきます。		
令和4年度	a	MINATO新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインに従い、感染対策を徹底しながら区民参画会議を開催したところ、参加者は増加しました。		基本的な感染対策は徹底しつつも、区民が積極的に参加できるように、周知をし、コミュニティ活動の担い手を増やします。		
令和5年度	a	区民参画活動への参加者が増加するようにコミュニティに働きかけを続け、コミュニティリーダーとなる人材を育成します。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
安全で安心なまちづくりに向けた活動参加者数	2,051人	5,096人	10,362人	15,781人	15,781人	16,128人

	達成度	当該年度の取組と成果	課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)
令和3年度	b	感染症拡大防止に伴い、実施回数が減少しましたが、実施の際は、「MINATO新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」に基づき対策を講じた上で実施しました。	感染症拡大を踏まえた実施方法を検討するとともに、引き続き、活動の趣旨に賛同した地域住民や企業等の参加を促進し、安全で安心なまちづくりを推進していきます。
令和4年度	a	防災や防犯、清掃に関する取り組みなど、前年より開催回数を増やしたことで、参加人数も増加しています。	各活動への参加者は増加しているため、引き続き参加者が安心して参加できるように、基本的な感染対策を徹底しながら、取り組んでいきます。
令和5年度	a	各回への参加者をさらに増やし、防災や防犯、清掃活動を通じた地域コミュニティの醸成を推進していきます。	

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 区民参画会議は開催回数や参加人数が増加したことで、中間目標を令和4年度の数値で達成しています。 安心・安全なまちづくりに向けた活動は開催回数や参加人数が増加しているため、令和5年度において中間目標を達成する見込みです。 施策の評価は、成果指標①及び②ともに目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「区民参画会議の参加者数」は芝地域コミュニティ部会や麻布地区政策分科会など複数の会議における参加者の増加が達成の要因となりました。 成果指標「安全で安心なまちづくりに向けた活動参加者数」は芝の愛宕地区において昨年度実施できなかった防災訓練が開催できたことなどが達成の要因となりました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 区民参画会議に参加する区民がますます増加していくように周知を継続し、地域への関心が高まる中でコミュニティリーダーとなる人材を育成します。 防災や防犯、清掃活動など地域に根差した活動を通じてコミュニティ活動の担い手を増やし、目標値の達成を目指します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。



B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
施策No	3	施策名	様々な媒体を活用した地域活動情報の共有によるコミュニティの活性化		
目標・期待する成果	区民が地域活動情報を入手し、より地域に愛着を持って事業に参加してもらい、住み続けられるまちづくりに関心を持ってもらえることをめざします。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	地域振興課		関係課		
担当者名	藤岡	内線	2557		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
総合支所Twitterのフォロワー数	1,689人	3,400人	5,098人	6,000人	5,150人	8,800人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	フォロワー数は、前年度から2倍の数になり、目標は達成しています。		引き続き、紙媒体の地域情報誌を実施します。FacebookやTwitter等のSNSを活用して、より多くの区民に伝わるよう、旬な話題を盛り込みながら、区政情報の周知に努めます。		
令和4年度	a	SNSでの情報発信が身近なものになったこともあり、すべての支所においてフォロワーが増加しています。魅力的な情報発信を続けたことで、中間目標の達成はできる見込みです。		フォロワーである区民が魅力的な地域活動の情報を手軽に入手できるように活用していきます。		
令和5年度	a	区民にとって魅力的な情報発信を継続し、フォロワー数のさらなる増加を目指します。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
地域を知る事業の参加者数	41人/年	457人/年	247人/年	250人/年	115人/年	115人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	地区によっては、ワクチン接種業務のため延期した事業があります。「SKDs学びのまちプロジェクト」事業は、小中学校と連携して、講座を行ったため実績人数が、大幅に増加しています。		幅広い世代が参加できるよう事業内容を工夫しながら、継続して取り組みます。		
令和4年度	a	芝浜小学校の設立等により、SKDs学びのまちプロジェクトの参加者数が減少しています。事業ごとに見れば各回の参加者数はほぼ横ばいですが、開催回数は増えているので、延べ参加者数は増加しています。		地域に愛着を持ってもらうために事業内容に工夫をしながら、参加者の増加を目指します。		
令和5年度	a	地域に愛着をもって参加する区民が増えていくように特色のある事業を展開します。				



a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 総合支所Twitterのフォロワー数は令和4年度の時点で目標値に近い数値であり、中間目標値を達成出来る見込みです。 地域を知る事業の参加者数は大幅に増加しているため中間目標値を達成できる見込みです。 施策の評価は、成果指標①及び②ともに計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「総合支所Twitterのフォロワー数」は、SNSが身近な存在になったことや地域の情報を簡単に入手できるようにこまめに情報発信をしたことが達成の要因となりました。 成果指標「地域を知る事業の参加者数」は、参加者を増やすために小中学校との連携を実施したことなどが達成の要因となりました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 区民が必要な情報を手軽に入手するための手段としてTwitterを有効活用し、更なるフォロワーの増となるよう、地域の情報を発信していきます。 地域を知る事業を通じて、地域の魅力をさらに発信し、地域に愛着をもつ区民を増やしていきます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
施策No	4	施策名	コミュニティ活動の場の提供		
目標・期待する成果	地域の課題解決に向けた区民と区との協働の場及び区民相互の活動の場として、区民協働スペース、区民センター、伝統文化交流館等の利用を推進します。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	地域振興課		関係課	芝浦港南地区総合支所管理課	
担当者名	木内	内線	2531		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
区民センター利用率	55.6%	61.0%	66.7%	76.8%	76.8%	82.9%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	感染防止対策の周知により、前年度から利用率が増加しています。		感染症拡大を踏まえた利用方法を検討し、継続して実施します。		
令和4年度	a	新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用制限が緩和されたことに伴い、利用率は前年度を上回っています。		利用者が安心して利用できるよう感染対策を実施し、引き続き利用率が上昇していくように適切な管理運営をします。		
令和5年度	a	新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後も基本的な感染対策を徹底しつつ、コミュニティ活動の場の提供と利用を推進します。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
伝統文化交流館「交流の間」利用件数	106件	210件	315件	350件	180件	270件
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	様々な事業の実施による施設認知が上がり、利用者数が増加しました。		催し物やお稽古での利用が多いため、利用者同士の接触を減らせるよう場内配置を工夫するなど、感染症拡大を踏まえた利用方法を検討し、継続して実施します。		
令和4年度	a	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を目的とした施設利用制限が緩和されたことに伴い、前年度の実績を大きく上回る利用がありました。		令和2年度に開設された伝統文化交流館において、感染症拡大による制限が緩和されてむかえる初めての年度となりました。施設の特長として高齢の利用者が多いため、引き続き消毒やパーティションなど感染拡大防止を行います。		
令和5年度	a	新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後も基本的な感染対策を徹底しつつ、コミュニティ活動の場の提供と利用を推進します。				



a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 区民センター利用率は毎年上昇しており、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を受けて中間目標で掲げる数値まで達成する見込みです。 伝統文化交流館「交流の間」利用件数は令和4年度時点で目標値を上回っており、目標値は達成できる見込みです。 施策の評価は、成果指標①及び②ともに計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「区民センター利用率」は新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用制限や行動制限の緩和が達成の要因となりました。 成果指標「伝統文化交流館「交流の間」利用件数」は畳敷きのスペースで子育て世代や高齢者にとって利用しやすいことや文化財として高く評価されていることなどが達成の要因となりました。
課題と今後の方向性	区民が安心して利用できるように基本的な感染対策を徹底しながら、区民相互の活動の場として区民センターなどの施設の利用者がさらに増加するように施設利用を推進していきます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	9	政策名	参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる		
施策No	5	施策名	コミュニティ活動の機会の充実		
目標・期待する成果	あらゆる世代に応じた多種多様なイベント（地域事業や祭り、スポーツ）を実施し、多くの区民の参加を推進し、にぎわいのあるまちへの愛着を深めます。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	地域振興課		関係課		
担当者名	藤岡	内線	2557		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
地域と連携・協働、支援しているイベントの参加者数	301人	616人	9,327人	10,900人	10,900人	11,900人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	感染症拡大に伴い、実施時期や事業規模によって、中止や延期をした事業があったため、大幅に参加者数が減少しています。		多数の参加者を見込む事業にあたっては、例年の実施時期を遅らせて、運営方法も含めて検討していきます。		
令和4年度	a	新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた事業が再開したため、参加者は大幅に増加しました。		中間目標値までは参加者数が若干届いていないため、コロナ対策に配慮しながらイベントを実施し、多くの方に楽しんでいただける環境をつくれます。		
令和5年度	a	参加者が安心してイベントに参加できるように基本的な感染対策を徹底しながら、地域の方の参加を推進します。		/		

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携・協働、支援しているイベントの参加者数は令和4年度に大幅に増加しています。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行などを受けてさらに参加者は増えることが予想されるため、目標値の達成が見込まれます。 ・施策の評価は計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、休止していたイベントなどが再開されたことが達成の要因となりました。
課題と今後の方向性	イベントの再開を楽しみにしている区民に対して基本的な感染対策を徹底しながら、地域のにぎわいを創出するように多種多様なイベントを開催します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。